

■はじめに

- ・今後の展望
- ・基本構想の役割

■地域経営の理念 (例)

- ・官民協働によるまちづくり
- ・「ないものねだり」から「あるものさがし」に

■目指すべき将来像 (例)

- ・世界に輝く「静岡」の創造
- ・静岡を「希望の岡」に

■計画の背景

- ・2次総までの評価
- ・社会経済情勢
- ・課題整理

■人口推計、土地利用構想

■地域経営の指針

- ・行政内部の改革 (アセットマネジメント、新公共経営等)
- ・公共サービスの見直し (選択と集中、ハードからソフト等)
- ・官民協働の推進 (民間活力導入、エリアマネジメント推進等)
- ・地域内分権の推進 等

■エリア別ビジョン

- ・東静岡 ・大谷小鹿
- ・日本平 ・新IC周辺
- ・清水港 ・オクシズ
- ・麻機 ・三保 等

■戦略プログラム

■各行政分野の基本的な方向性

■個別事業計画 (ハード・ソフト)

■ネクストプラン (次期実施計画での想定事業)

【財政計画との整合】

ハード事業は、投資的経費全体での整合を行う。ソフト事業の取扱い、業務の効率化は今後検討する。

「3次総策定の考え方」

1 時代認識と3次総のポジショニング

〈カネ〉
グローバル経済
情報化・金融化
ガジン資本主義

〈モノ〉
集権的国家システム
国レベルの経済活動
公共政策=インフラ整備
国土政策、国土づくり
経済成長
工業化

〈コト・ココロ〉

分権的社会システム（地方分権）
サービス経済、経済のローカル化
公共政策=ストック活用
都市政策、まちづくり

転換

定常・持続可能
ポスト工業化


第3次静岡市総合計画

成長・拡大に代わる
新たなアイデンティティ・価値・基本戦略

余暇、自然、環境、コミュニティ、介護、
医療、文化、第6次産業

2 「価値観」の転換

項目	～1次総・2次総	3次総～
全体	成長、拡大 経済性、効率性	幸福、誇り 多様性、寛容性
豊かさの 指標、尺度 ライフスタ イル	モノ、カネ	コト、ココロ（体験・感動）
	量、均質性（他都市と同じ ように）	質、独自性（地域ならではの）
	大量生産・大量消費、 スピード、車社会	安心・安全、地産地消、 スローライフ、人中心
志向	グローバル化	グローバル化 + 地域力の向上（地域内循環）
コミュニティ	自由、個人主義	きずな、つながり、シェア

項目	～1次総・2次総	3次総～
主なテーマ	国の政策に基づいた、ストックの蓄積・拡大	地域の政策として、ストックの活用・マネジメント
サービスの視点	まんべんなく。(総花) 富をどう分配するか？	選択と集中(メリハリ) リスクにどう対応するか？
市民との関係	「顧客」と捉え、可能な限りニーズに対応	「パートナー」と捉え、協働して課題を解決(市民参画)
執行体制	組織の分割・分担により、効率化を図る。(タテ割り)	組織の連携・複合により、価値を生み出す。(タテ・ヨコ連携)  戦略プログラム
行政運営	総合計画、行革、財政計画を個別に推進。 事務事業評価のみ実施。	行政運営・行財政改革の一体的な推進。 政策評価、施策評価の導入等による行政評価の拡充。

4 「地域経営」への転換

3次総の記載項目

項目	～1次総・2次総	3次総～
総合計画の位置づけ	行政の計画	市民、民間の力も取り込んだ地域全体の計画（新しい公共）
主な目的	政令市としての基盤づくり、新市の一体化	持続発展的な地域経営の実現
内容	施策を網羅的・体系的に示す。【カタログ】	最初に、仕事の仕方、基本的視点を示す。【ルールブック】 ↳ 地域経営の指針
	土地利用については、都市空間・構造の考え方を示す。	加えて、開発余力のあるエリアの方向性を示す。 ↳ エリア別ビジョン
分野の計画	企画局主導で、計画作成担当者が作成	各部局で、各分野の領域、目標、施策の方向を主体的に作成 ↳ 分野別の基本的な方向性
経営資源	行政投資 約450～650億円/年	行政投資 約300～350億円/年 + 民間活力